

2011年 ミーゼス読書会

# 村田 稔雄先生 特別講義

ミーゼスとヒューマン・アクションを語る

2011年8月6日

午前11時30分より

東洋大学

富士見高原セミナーハウス (予定)

長野県諏訪郡富士見町

最寄駅 JR中央線 小淵沢駅

(小淵沢より送迎の予定あり)

主催 田淵ゼミ(東洋大学 大学院)

吉田ゼミ(千葉商科大学 大学院)

運営 ミーゼス研究所 ジャパン



村田稔雄

横浜商科大学元学長

1923(大正12)年 高知市に生れる

1959(昭和34)年 ニューヨーク大学で

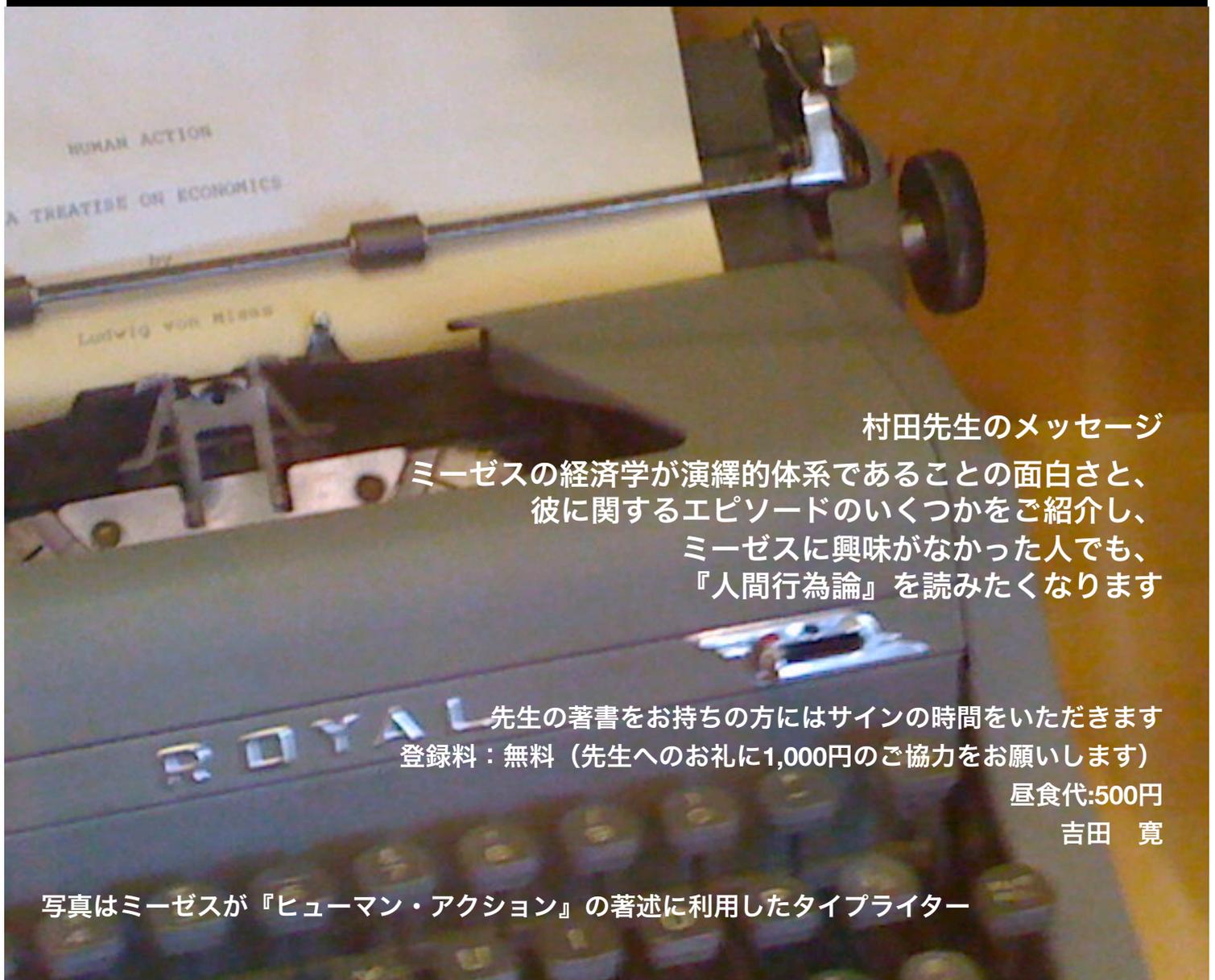
ミーゼスに師事

1991 (平成3)年ヒューマン・アクション

第一版翻訳出版

2008 (平成20)年ヒューマン・アクション

人間行為の経済学 (新版) 出版



## 村田先生のメッセージ

ミーゼスの経済学が演繹的体系であることの面白さと、  
彼に関するエピソードのいくつかをご紹介します、  
ミーゼスに興味がなかった人でも、  
『人間行為論』を読みたくくなります

先生の著書をお持ちの方にはサインの時間をいただきます  
登録料：無料 (先生へのお礼に1,000円のご協力をお願いします)

昼食代:500円

吉田 寛

写真はミーゼスが『ヒューマン・アクション』の著述に利用したタイプライター

## 特別講義の趣旨

ミーゼスの名著“Human Action”に、『いわゆる「オーソドックス」な経済学は、ほとんどの国の大学から締め出されているので、有力な政治家、政治屋や著述家はほとんどそれを知らない』（p.9）とあります。

このセミナーでは、その「オーソドックス」な経済学に触れません。

ミーゼスは、価値の本質は「物に内在するものではない。それは我々の心の中にある」（p.111）とします。他人の成果を評価し、尊重することで交換が始まり、他人の仕事の成果を享受することが可能になるとしています。

ミーゼスの視点から政府の役割を知ることは、行政の効率化を画する者にも、その成果を測定しようとする者にも重要です。

この講義では、ミーゼスを研究されている國學院大学の尾近先生にミーゼスについての解説をいただきます。その後、日本でミーゼスの啓蒙を続ける村田先生に、「ヒューマン・アクション」についてご講義いただきます。

## スケジュール 2011年8月6日

11:30 -11:40 :開講挨拶

11:30 -13:00 :ミーゼスを語る

尾近裕幸（國學院大學経済学部 教授）

13:00 -13:30:昼食

13:30-14:00 :自由経済をしゃべる

Marc Abela（ミーゼス研究所ジャパン 代表）

14:00-15:30 :ヒューマン・アクションを語る

村田 稔雄（横浜商科大学名誉教授）

15:30-16:00 : 質疑応答

16:00-16:10 : 謝辞

## 外部からの受付

本講座に余席がある限り、外部からの参加を受け付けます。

ご希望の方は、 Marc Abela ([mabela@mises.jp](mailto:mabela@mises.jp))  
または、吉田 ([catallaxy@mac.com](mailto:catallaxy@mac.com)) までご連絡ください。

## 会場までのアクセス

中央線小淵沢駅が最寄り駅です。午前9時新宿発のあずさ9号は午前11時8分に小淵沢駅に到着します。この列車にあわせて、小淵沢駅までお迎えいたします（予定）。



ルードヴィヒ・フォン・ミーゼス

Ludwig von Mises

1881年9月29日に

オーストリア・ハンガリー生まれ

経済の発展が「私有財産制と分業」にあるとし、計画経済の脆弱性を指摘する。このため、ナチスに疎まれ1940年米国にわたりニューヨーク大学で教鞭をとる。ハイエクやフリードマンもミーゼスに学んだ。

尾近 裕幸（國學院大學経済学部 教授）

オーストリア学派経済学を研究領域として、ミーゼスと、ミーゼスに学んだハイエクについて研究されている。

翻訳

F.A.ハイエク『社会主義と戦争』

（ハイエク全集 第II期 第10巻）春秋社

村田 稔雄（横浜商科大学名誉教授）

1923（大正12）年、高知市生まれ。大陸で陸軍に勤務、除隊後物価査定委員会“Human Action”に出会い、ウィリアム・フォルカー奨学生として、ニューヨーク大学に留学。ニューヨーク大学で直接ミーゼスの指導を受ける。同大学MBA（経済学専攻）横浜商科大学教授学部長、学長を経て、名誉教授。現在は長野県原村に居住

訳書（ヒューマン・アクションの他に）

ミーゼス著『自由への決断』広文社

ミーゼス著『経済科学の根底』日本経済評論社

マルギット・フォン・ミーゼス著

『ミーゼスの栄光・孤独・愛』日本経済評論社